

認知症フォーラム2026

認知症マフの魅力とは？

～編み物でつながる地域共生社会～

1

マフの魅力



「ふわふわ」のぬくもりで、
こころが落ち着く
認知症マフとは？
毛糸で編んだ円筒形のニット
小物で、手を通すと落ち着く
効果があるといわれています。

2

さまざまな交流



マフづくりを通じて
認知症の人、編み物好きの人、
おしゃべり好きの人、
そうでない人、
いろんな人と交流ができる

今年度の認知症フォーラムは、認知症のことを世の中に誤解なく知ってもらうことで、当事者の方々がより住みやすい世の中を作る活動を進めている、NPO 法人ONBOARDさんに認知症のこと、介護のこと、「認知症マフ」のことなど、さまざまな取り組みを紹介していただきます。

開催日	令和8年9月27日(日)
時 間	午後2時～3時30分【開場:午後1時30分～】
会 場	テクスピア大阪 小ホール
対 象	市内在住または在勤の人
定 員	100名(先着順)
講 師	NPO法人認知症サポートグループ ONBOARD 理事長 山本 雅彦 氏
申 込	8月17日(月)から電話またはWebにて受付 地域包括センター ☎0725-21-0294

申込み用
二次元コード



社協「ボランティアサロンハートちゃん」で『きずなマフ（認知症マフ）』を作るワークショップを開催！

日時：10月27日（火）13：30～16：00 参加費用：1,500 円(当日現金払い)

会場：総合福祉センター

対象：市内在住または在勤の人

持ち物：10 号かぎ針、糸切りばさみ

募集人数：15 人（先着順）

申込〆切：10/13（火）

申込み用

二次元コード

WEB でも

申込可！



※10/13（火）以降キャンセル料が発生することがあります。

問合せ・申込：地域包括支援センター（0725-21-0294）

包 括 だ よ い

発行所

泉大津市地域包括支援センター

（泉大津市社会福祉協議会）

Tel. 0725-21-0294



助松団地
岡田鈴江様
93 歳

Q. 若い頃のことを教えてください。

A. 神戸市山手通りで生まれました。父親は陶器の仕事をしていましたが、昭和十五年、六歳の時に神戸で大水害があり、亡くなりました。その後、母、兄達と母方の叔父のいる堺市に引っ越して来ました。

小学校六年生の時に大空襲があり、家族は無事でしたが、焼け出されました。終戦後は学校に通いながら、買い出しに行っていました。十九歳で日本通運汐見営業所で働き始めました。その後、日本通運を退職し、大阪トヨペット堺営業所に就職し、そこで知り合った夫と、昭和三十四年に結婚しました。昭和三十七年長男、昭和四十年には長女を出産しました。子どもの成長とともに、何度か堺市内を引っ越しました。

Q. 元気の秘訣は

A. 今でもいろいろなことにチャレンジしていることです。今まで様々なサークル活動に参加して、刺激をもらっていました。



サークル活動で作られたガラス細工

昭和五十六年に、夫が亡くなりました。息子が大学生、娘が高校生であり、学校は卒業してもらいたいと思い、知り合いの自動車整備会社で再び働きました。

息子、娘が学校を卒業し、独立してからは、コース、ハーモニカなどのサークルに入り、コロナ禍までは活動していました。

現在は毎月一日に三社参り（助松神社・穴師神社・曾根神社）をしています。

編集後記

インタビューの合間に、ハーモニカを演奏していただきました。ブランクがあるといわれましたが、ブランクを感じさせないものでした。また自分の興味のある演奏に年齢に関係なく、チャレンジすることの大切さを学ばせていただきました。

Q. 最近楽しんでいること

A. 知人と食事にいき、おしゃべりをして楽しんでいます。



所有されているハーモニカ（一部）
演奏曲によって使い分けられます。

Q. 若い人に一言

A. 外に出て行き、活動に参加すると、知らない人ともかわりを持ち、人間模様を知ることが出来ます。また人と話をするといういろいろなことを教えてもらえます。